

「台湾花蓮大地震、地震の度に七転び八起き 台湾精神」

人事コンサルティング、日本企業の台湾新進出事前調査、台湾現地法人の設立、運営サポート業務等を中心としたサービスを提供。日本の良き隣人「台湾」に関することなら、築いてきた人脈と自信の経験値を基に懇切丁寧にサポート。



4月3日、午前7時58分にマグニチュード7.2の大地震が台湾全土を大きく揺らしました。なかでも震源地の花蓮では、その被害も深刻です。今回の地震では台湾各地で強烈な揺れが感じられ、物の落下や破損、エレベーターの故障等が相次いで発生しました。こうした地震関連一辺倒のニュースのなかで、特に目につきました二つの話題をご紹介します。

＜避難者プライベート確保テント＞

一つ目は日本のSNS上でもいち早く話題となりました台湾花蓮の避難所内に設置された避難者用テントです。今回の台湾花蓮大地震で日本のマスコミがいち早く花蓮の避難所の様子を報道し、避難者のプライベートや快適生活を確保する為の専用テント及び付属品(ベット、簡易型机、毛布等)、お湯が出るシャワー、仮設トイレ、心のケア窓口等が準備されていることに、日本人達が称賛の声を送るという現象が起きました。今回の避難所設置にも、災害時における被災地ボランティア活動に長けた仏教系慈善団体「慈済基金会」の働きが大きく影響しています。ちなみに「慈済基金会」は広く知られた台湾最大級の慈善団体であり、日本の阪神淡路大震災、3.11東日本大震災でもいち早く被災地の後方支援活動に動くなど、海外での災害援助ボランティア活動でも多少なりとも知られた団体です。台湾での災害発生時には被災地最前線で人命救助にあたる軍隊、消防、警察等の後方には、必ずや「慈済基金会」の被災地ボランティア部隊ありと言っても過言ではないと思います。もちろん、中央政府並びに地方自治体のもと救済活動が行われるのですが、災害時における「慈済基金会」の機動力は台湾の多くの人達からも認められています。今回も素早い動きが大きな話題となりました。また避難所で使われる防災用品は昨今の環境問題を考慮し独自で開発したエコ防災用品が使われています。その他では、所属ボランティアを政府機関認定防災士訓練課程に参加させ、防災士の育成にも力を注いでいます。この様に台湾では災害時に政府機関と連携して独自に動く強力な慈善団体が存在しています。今回の地震で改めて彼らの存在がクローズアップされ、話題となっています。

＜台湾が誇る世界的企業 TSMC の地震対策＞

二つ目は今や世界を代表する半導体業界の超有名企業 TSMC 社(台湾積体電路製造股份有限公司)の大地震発生後のスピーディーな対応について取り上げてみたいと思います。今回の大地震発生により、一旦は工場の稼働をストップさせましたが、わずか数時間後には従業員達が工場に戻り、10時間後には工場内の設備稼働率が70%以上となり、その普及率の高さに各関係者の間で驚きの声が上がりました。TSMC 社では過去の大地震における教訓を活かし、政府が定めた耐震基準より1.25~1.5倍を上回る独自の基準を採用しています。また常に工場におけるダンパー装置を強化することで振動の軽減を図るべく研究を積み重ねています。同時に工場内設備における滑走防止、天井の歪み、落下防止対策の徹底、地震警報発令時の自動停止システム等々、様々な部門や箇所での防災対策強化が図られています。そのため、今や台湾の人達が台湾で再び大地震に襲われたら一番安全な場所はどこかと尋ねられると、真っ先に返ってくる答えが「TSMC 社です。」と言わしめるほど、台湾を代表する防災対策建造物の象徴として捉えられています。

最後に、余震が続くなか、台北 SOGO デパートの日本物産展は中止することもなく最終日まで開催されました。初出展の広島洋菓子店「(株)櫟(kunugi)」が不安の中、最後まで頑張られたことに敬意を払いたいと思います。また、日本の皆様からのお見舞いのメッセージや義援金にも感謝申し上げます。



(地震後の会場の様子。撮影日：4月6日)